

地域とともにある学校

鶴居中学校区（鶴居小学校・下幌呂小学校・鶴居中学校）



コミュニティ・スクールだより

双方向、熟議、連携・協働 平成30年12月19日（水）No. 7

コムスク全国 in 三笠大会報告②

10月12日（金）に三笠市で行われた全国コムスク研究大会（三笠）報告続編です。今号では参加した3分科会の報告です。

<第1分科会>「コミュニティ・スクールの効果的な導入」

・導入に際して、新しいものをつくるのではなく、既存の組織や活動を束ねるイメージで取り組むべき。 →鶴居では学校評議員などを活用

・主体的に取り組めるよう「熟議」で課題解決のために具体的な取組に意見を出し合うことが大切。

⇒PTA合同研修での熟議等を具体化し、次年度に形にしてい

・自分たちの子どもにどう関わって、育てていくのかという意識で、自由に意見が言える環境が大事。

・コミュニティ・スクールは導入して終わりではなく、導入してスタートであり、教育委員会の関わり、支援が重要。⇒次年度以降が大切（継続性）

・CSは地域を盛り上げるツール・手段の一つだが、すべては子どもたちのためであることが第一。↓今話題の高校生レストラン



埼玉県久喜市の実践を紹介します。規模は大きいものの鶴居中学校区と同様に小学校2校、中学校1校で活動しています。毎年8月に保護者・地域の方、教職員が一同に会して、ワークショップ型研修を実施し、よりよい学校づくりについて意見交換をしています。また、中学校部会では学校運営協議会と生徒会の懇談会を行い、コムスクの推進に生徒も一翼を担っています。地域の共通理解の下、具体的な取組（地域での挨拶運動など）を決め、周知することも必要になるとの課題があげられていました。先日、鶴居中学校区3校の管理職で集まって、今後の連携の方向性を話し合いました。子どもたちが鶴居に誇りをもち、豊かな人生を切り拓いていけるよう9年間の育ちをキャリア教育を軸として整理する方向で話を進めています。各学校の部会でも討議し、全体に図っていきます。

<第2分科会>「コミュニティ・スクールで校種間連携」

・複数の学校が連携を進めるには、幼少中の子育ての一貫性、小中9年間の同じ教育課程、校区・地域等の連携する必要性が明確であり、子どもの育ち・成長に見通しをもてる範囲でくることが大切 →小中連携

・行政・学校・地域が見通しをもち、子どもの育ちに最後まで責任をもち、役割を果たすことが大切。

・連携はそれぞれのりしろを重ねるのではなく、大きなテーマに向かって何ができるのかを考えることが大事であり、テーマに基づいてそれぞれがやれることをやっていく、力を発揮していくのがCS。

<第3分科会>「コミュニティ・スクールで広がる子どもの未来」

・コミュニティ・スクールは教職員、地域の人、家庭・保護者をどうやって巻き込んでいくか、いけるかが大切。

・持続性のある、人が替わっても持続できる方法、地域の中からキーマンを見つける事が必要。

・やってくださいという意識を変え、自分自身が動く、行うことで他を巻き込んでいくことが可能。

・保護者も忙しいことを踏まえ、毎回参加できなくても、心とアイデアを寄せてもらうことで、一緒に、楽しくやっていくとする運営側の意識改革と、思いを自分の言葉で伝えていくことが大切。